

第58回名古屋矯正管区教誨師研修大会（第35回全国教誨師大会併催）

自己評価委員会議事録

- 1 開催日時 平成26年7月31日（木）午後3時30分から午後5時まで
- 2 開催場所 熱田神宮会館
- 3 出席者 大会実行委員長 石川 宣
実行副委員長 楠原 純孝
大会事務局長 加藤 通幸
企画部部长 石原 和久
研修部部长 福井 正信
広報渉外部部長 華埜井 究
財務部部长 槇 研治
(ほか教誨師30名 聴講及びアンケートの集計)
事務局職員8名（矯正施設職員）

4 議事内容

- (1) 第58回名古屋矯正管区研修大会の場で総会資料を配布していたが、内容説明を再度行った。
- (2) 大会の参加者及び運営について
 - ア 大会の参加人数については、576名（教誨師499名、矯正施設関係60名、その他関係者17名）となった。全国教誨師大会に併催する形での実施であったため、大規模な運営となったが大きな問題が発生することもなく、ほぼ時間通りの運営ができた。
 - イ 参加者の把握、会場、宿泊場所等の手配などに旅行代理店が入ったこと、会場ホテル担当者も計画の早い段階から会議にも参加したことから、大規模な大会であったにもかかわらず、準備作業を確実に進めることができた。おそらく、教誨師だけでは困難であったと思われる。
- (3) 研修の講師及び講演内容について
 - ア 全国大会と併催して実施したため、研修規模や研修内容をいつも以上に充実させることができ、研修に参加した各教誨師には強いインパクトを与えることができた。

イ 各講演での講師の選定及び講演内容については、非常に好評であった。宗教教誨活動を改めて考える契機になったという感想や宗教的教育の意義を再確認できたとの感想が得られた。

(4) 参加者の参加記念品について

参加記念品は、名古屋矯正管区内（三重県）の郷土品である「組みひも」を使った名札のストラップとし、三重刑務所の刑務作業製品を利用して作成した。教誨師からだけでなく、関係機関等の来賓からも好評であったため、今後も参加記念品を選定する際の参考にしてもらいたい。

(5) 予算規模及び現在支出額について

第58回名古屋矯正管区教誨師研修大会（第35回全国教誨師大会併催）の予算は3,900万円を計上して進めており、7月31日現在で3,000万円程度の支出となっている。記録誌の作成及び発送等が今後の主な業務となってくるが、最終的な決算額については、3,500万円程度を見込んでいる。

(6) 大会アンケートの集計について

ア 大会最終日に回収したアンケートについては136名の提出があり、回収率は27%であった。

イ 大会全体を通しての感想は、全般的に好評価を記載しているものが多かった。また、会場選定や講演が良かったとする一方で、宿泊ホテルと会場が離れていたことを指摘する意見も出された。

ウ 「大会日程及び内容について」という項目では、90%が「適切だった」と回答していた。主な理由として、遠方からの参加であり、1泊であったため、移動時間等余裕があり、落ち着いて参加できた、大会運営が非常に円滑に進められていたことが挙げられていた。また、「どちらともいえない」という回答が10%弱あった。国家斉唱は不要であるというものや、宿泊ホテルと会場を一緒にしてほしいという意見もあった。

エ 「研修の成果について」という項目では、90%が「大いに成果があった」と回答していた。各講演についての感想が多く見られ、好評であった。また、会場にスクリーンを設置して資料や講師を映して実施したことも好評であった。「どちらともいえない」という回答が4%あり、「分

科会や体験発表を希望する」という意見もあった。「あまり成果がなかった」との回答も1%あり、「もっと質問時間がほしかった」との意見もあった。

(7) 総評

大会テーマに「いま、教誨に願われていること」、サブテーマに「教誨の原点を問う」を設定し、宗教教誨発祥の地における開催であったことから、宗教教誨活動の意義を問い直し、公益的な現代に即応する教誨を模索することを主眼に置き、講師を選定した。その結果、参加した教誨師だけでなく、宗教関係等来賓からも、テーマにふさわしい研修内容であったとの感想や、宗教教誨活動について理解を深めることができた充実した研修であったとの感想が得られた。